



LIMIT BREAK NEXT! III

DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止



本作品シリーズはフィクションです。
実在の人物、地名、施設などとは一切関係ありません。

また、今回は所謂「説明回」的なところがあるので、
会話が長いシーンがあります。
エロだけお求めの方は読み飛ばしてくれ！！

以上の点をご了承の上、最後までお楽しみください！

蒼刃

あらすじ

ここは獣人などの様々な種族が生き、
特殊能力といった異能が密かに存在する世界。
特殊能力の源である生命エネルギー「エナジー」を狙う
凶悪な犯罪者「ヴィラン」達から街を守る「ヒーロー」、
主にトウキョーで活動する不知火轟希、「轟」もそんなヒーローのひとり。

性的な夢ばかり見るとともに、勃起が止まらない謎の現象に
悩まされる轟。それらはすべて、異世界から召喚された
淫魔王エクス of 仕業であった。淫紋の力で本能のままに
エクスと交わることになってしまった轟だが、その場に現れ
エクスを止めたのは、魔術師を名乗る梟鳥人のアモーだった。
轟の能力に警告を示すとすぐに立ち去ってしまったアモー、
そして逃亡したエクス。

残された轟は「魔術」との邂逅に戸惑いを隠せずにいる...

登場人物

ヒーロー名：轟 本名：不知火轟希

実年齢：21歳 肉体年齢：30歳相当 誕生日：8/30
身長:188cm 体重:125kg ♂：最長約40cm
能力：『限界突破 -リミットブレイク-』

・本作の主人公。狼獣人。ヒーローに命を救われたこと
がきっかけで力に目覚め、憧れとともに育ちついにヒーローとなる。
前向きで明るい好青年。なにかとピンチもごり押しで何とかする。
・超絶精力絶倫タチ寄りのリバ♥ えげつない上反り巨根と攻めテクで
どんな雄でもメスイキさせる。



名：淫魔王エクス



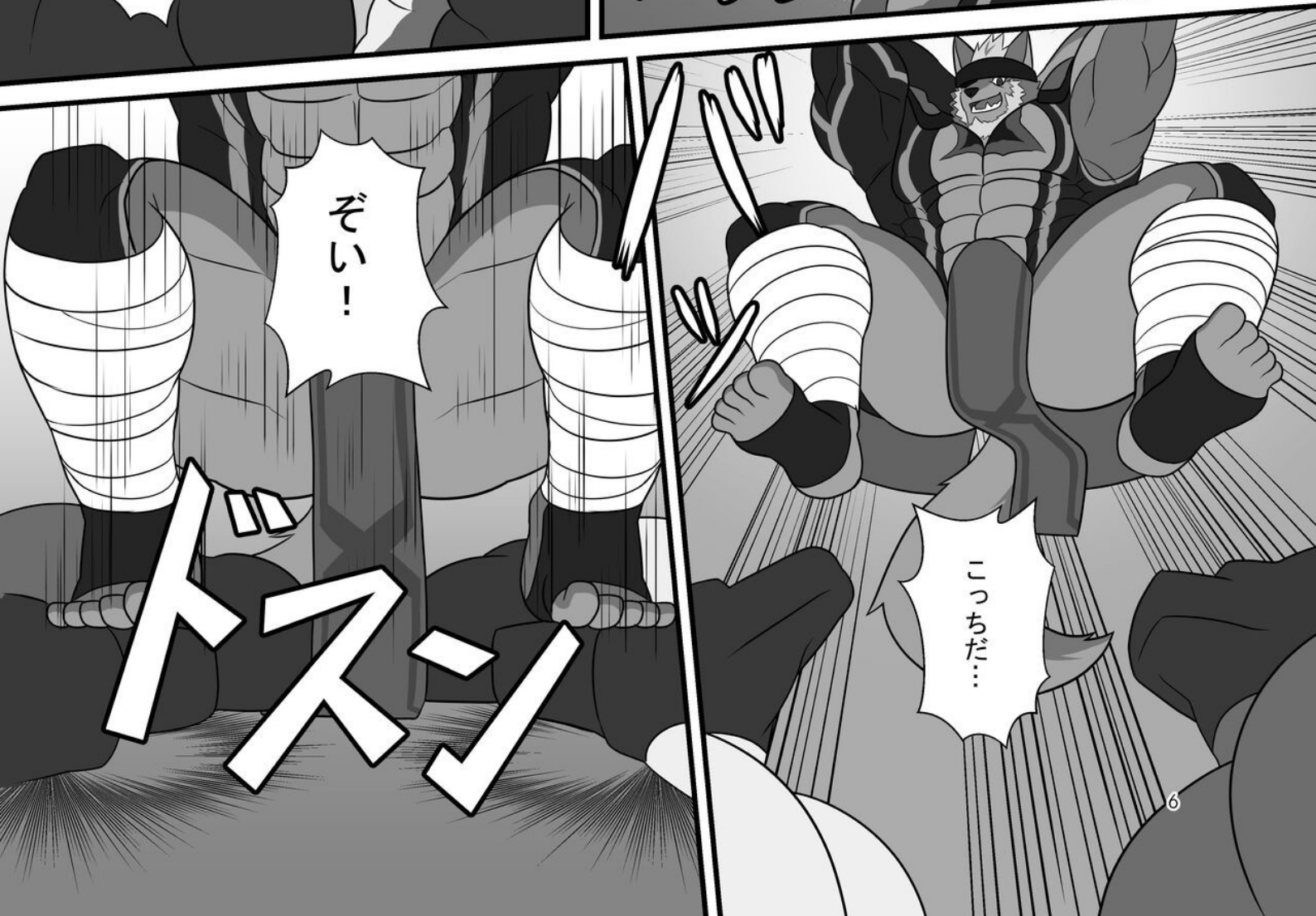
・異世界から召喚された淫魔の王。
生物の精力を吸収し力を得る。
エクスを呼び出した魔術師は未熟
で、中途半端な召喚だったため、
エクスは力を削られて召喚され立腹。
召喚者はエクスに精力を搾り取られ
現在廃人同然の状態らしい。

名：『大賢者』アモー



・異能や魔術を観測し、記録を残すことを
主な目的とする組織、神秘観測機関リストの
指導者。指輪を用いた魔術を操る魔術師。
本人は明言しないが、実はかなりの長寿。
異能についての知識は賢者の名にふさわしく、
轟希の能力についても何か
知っている様子。









フッ

まずは君に謝罪を。
先日はいろいろと
すまなかつたね。
急なことばかりで
困惑しただろう。

それで

コソ...

何を話して
くれるんだ？

そもそも、エクスがこちらに
召喚されてしまったのは我々
魔術師側の落ち度だ。
君を巻き込んでしまった。

その魔術師ってのは
おとぎ話にでてくる
あの「魔術師」か？

その通り。
君のようにエナジーという
生体エネルギーをもとに
それぞれが特異な異能を
発揮して使用できるのが
能力者と呼ぶならば、

対して私たち魔術師は、「魔力」という力を使い、定められた手順を踏み術式を用いることで神祕の体現を行う者たち。君たち能力者のヒーローと比べ、自分たちの存在をできる限り世間から隠そうとするのが特徴かな。



うお!?

この間も話した通り、私は世界の神祕を観測し、記録するための組織「リスト」のリーダーを勤めている。



そして、



あの時の淫魔王エクスは、とある魔術師によって異世界から召喚された存在。淫魔とはいえヤツは魔王。幸か不幸か、召喚される際に召喚者の力量不足で力の大半を失っていたようだが、完全な力を取り戻せば人類への脅威になりかねない。だから私が直接出向いた次第だ。



次元の狭間に存在する「隙間の図書館」を拠点に、あらゆる神祕を観測し、記録を残すために働いている。

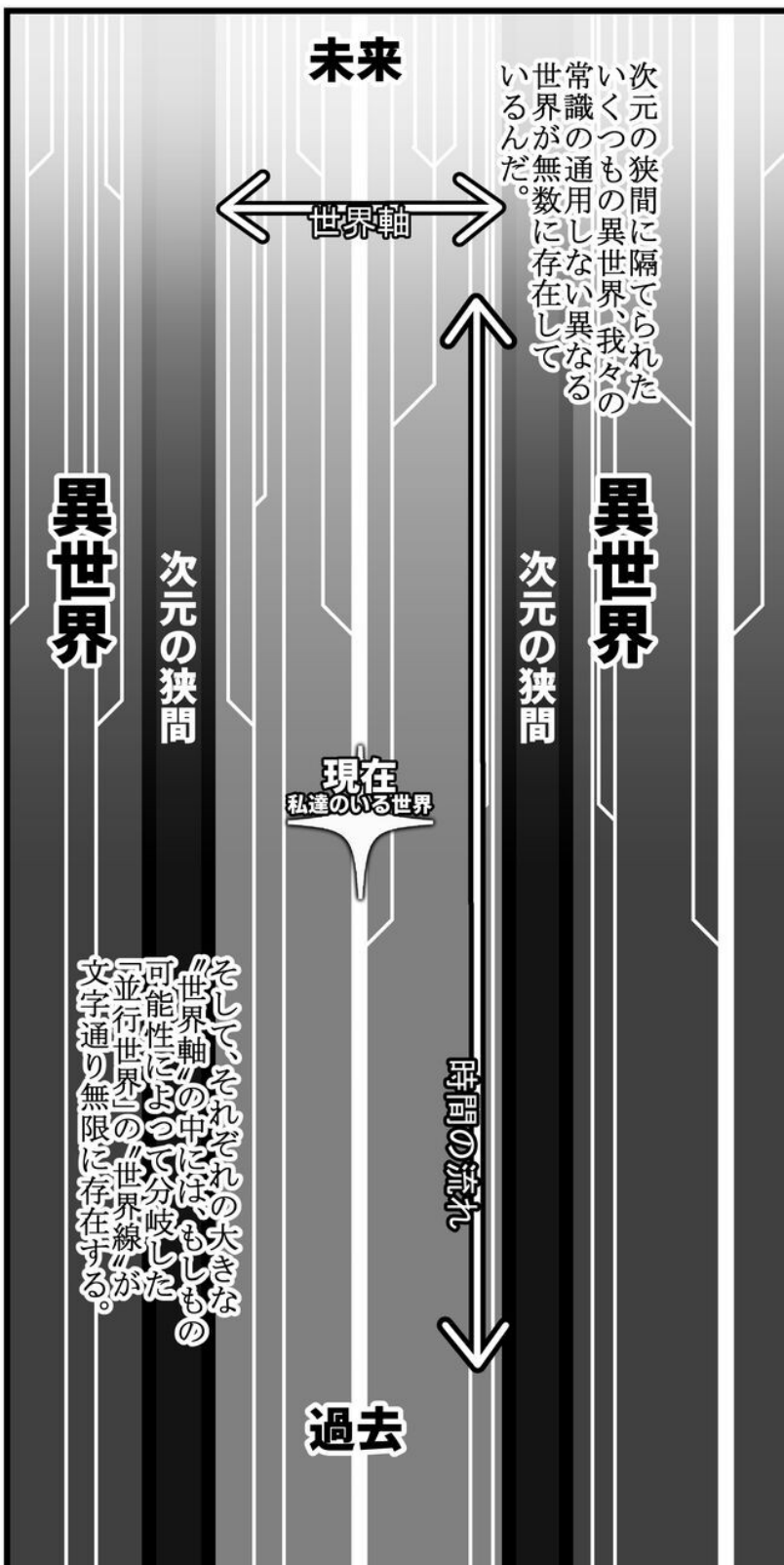
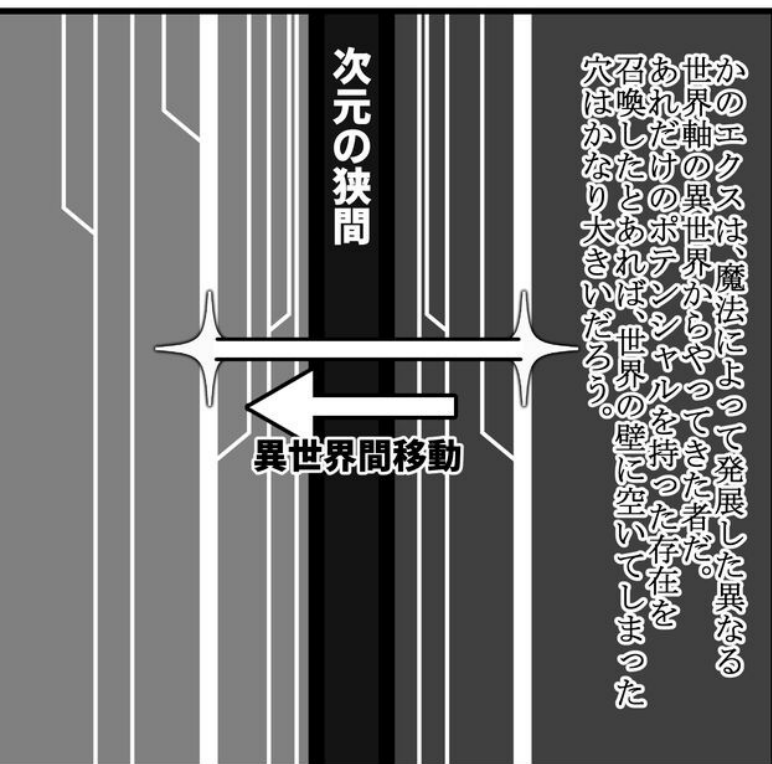
歴史の記録係と言ったところかな。また、高度な観測魔術によって世界への危機をいち早く察知できるため、時に秘密裏に危機への対応を行っている。



異世界…だって？



異世界からの召喚行為は、次元の壁に穴をあけるため表向きは禁止されている。危険な行為で、だからこそ我々が監視し止めるべきだったのだが、恥ずかしいことに我々は異世界の干渉を阻止できなかった。







我と再び
ドスケベセックス
するのだ！

ブー！！

ええ…



プライドって…
どうしたら帰って
くれるんだ？



ココに来たからには
決まったようなもの！



大賢者に捕らえられた
以上「世界性服」は諦め
るが…！！

帰る前にせめて
貴様と本気セックス
せねば帰るに帰れん
のだ！



正直、不敬な魔術師に
無理やり召喚されたのは
怒りを覚えたが、それ以上に
貴様のような雄と出会
い
やれたのは淫魔冥利に
尽きるというもの…



本人がこう言っ
て
るし、それで素直に
帰ってくれるなら
それがこちらとして
も
助かるかな。

…と申されてますけど？

もちろん、またエクスが君の
力を吸って力を取り戻さない
ように私が立ち会おうし、
私が介入しやすいよう精神体で、
夢の中で交わってもらおうけど。

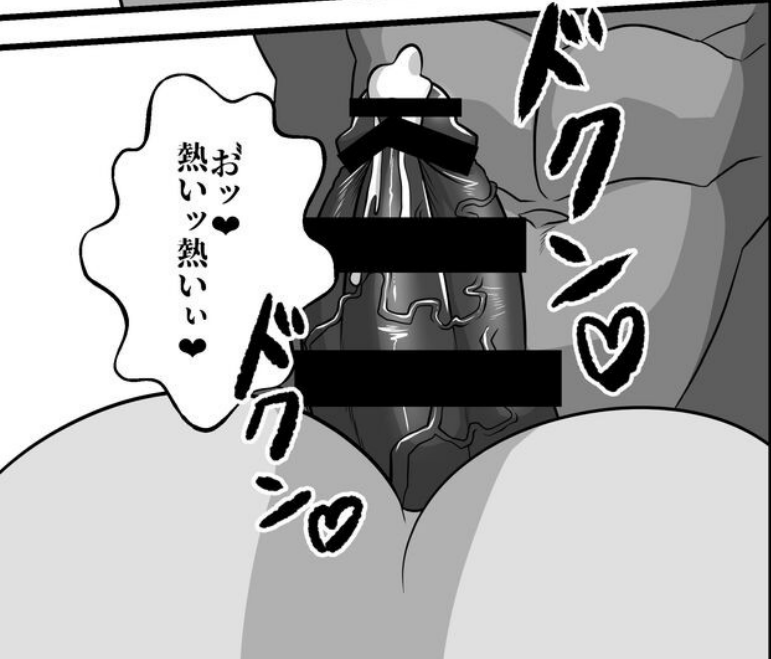


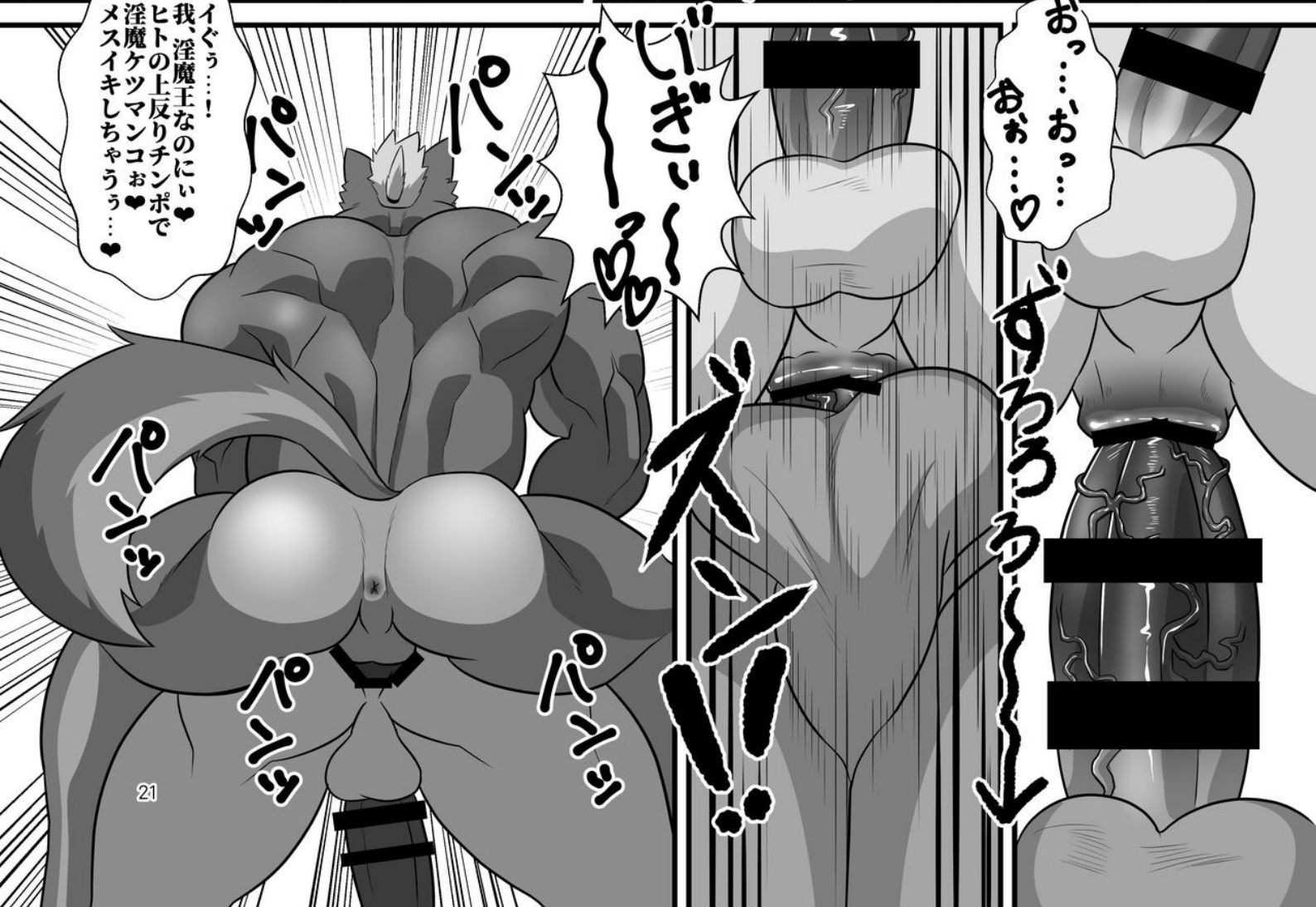
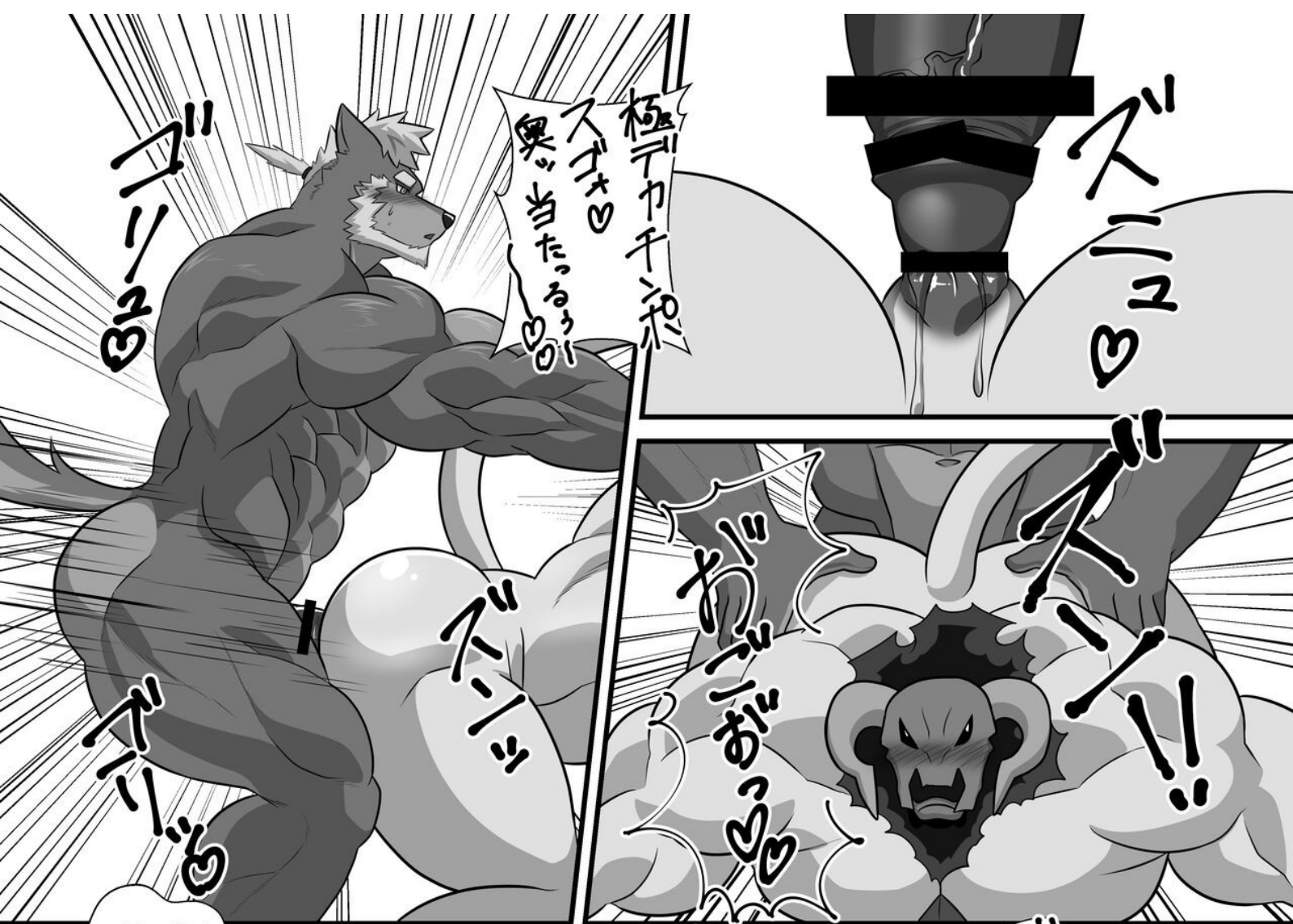








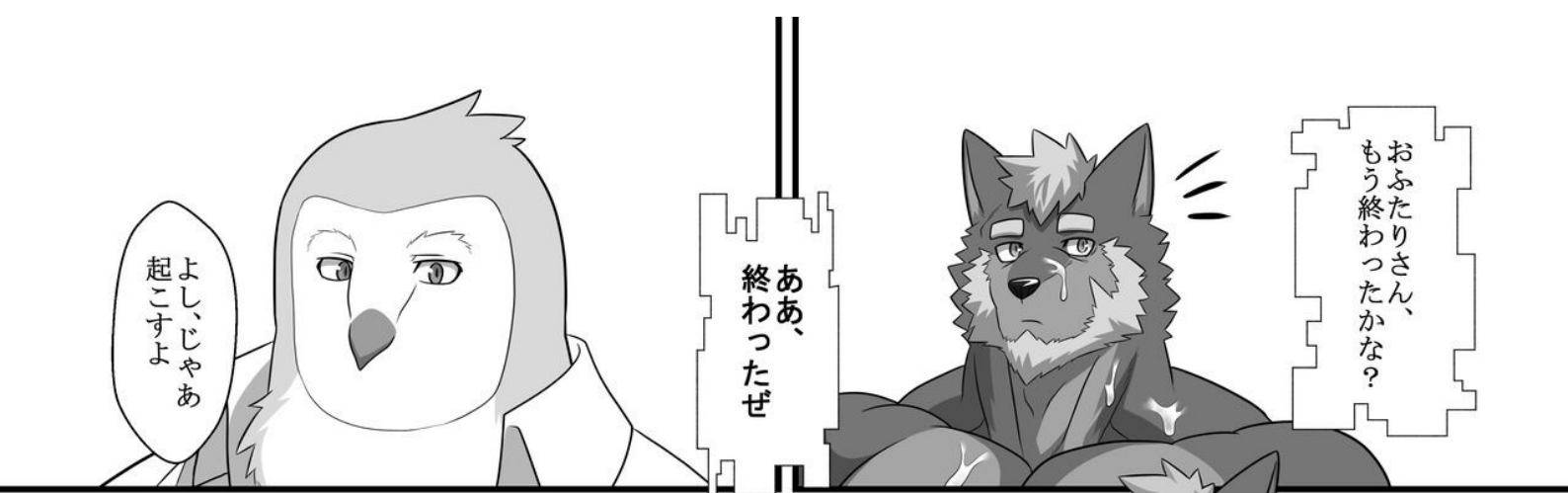














えっと…俺自身の身体能力とか
他人の能力出力とかを、
限界以上の力に強化したり
逆に制限したりできる能力…
って感じかな？

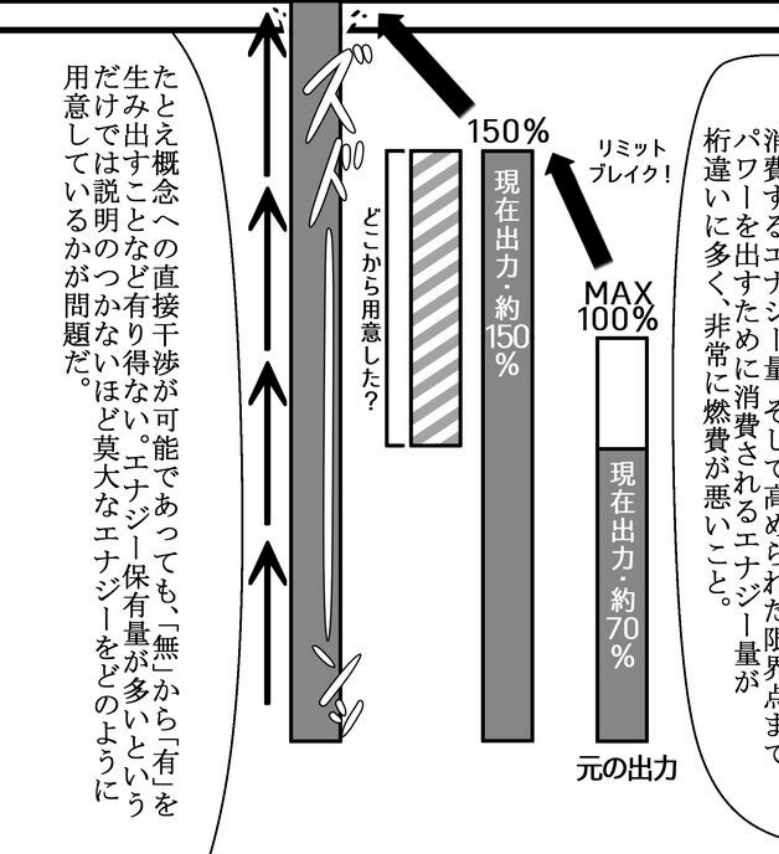
ふむ、まあ認識として
は合っている。



さて、準備をしながら君の知り
たいことを話そうか。
謎な部分も多かったが、さっき
君が寝てる間に解析したから
かなり詳しく話せると思うよ。

いつの間に!?
というか寝てる
時に勝手に!?

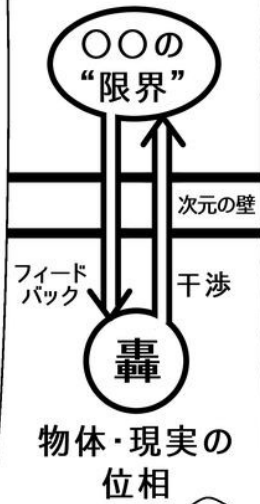
まあいいじゃないの。
それで、君は自分の力を
どのように認識
している？



ここで問題になるのは、君が「限界突破」を行うために
消費するエナジー量、そして高められた限界点まで
パワーを出すために消費されるエナジー量が
桁違いに多く、非常に燃費が悪いこと。

君の能力使用プロセスは、この「限界」の概念を書き換え
現在の「限界」を破壊し、本来の限界点を変更すること。
他者に使用する場合「目を合わせる」行為を通じて
相手のエイドスにアクセスして行われる。
エナジーの消費によって別異相のエイドスにアクセスし
書き換えを行う、一時的な現実改変に近い。

情報・精神の 位相



君の想いが成しえる「限界を超える」力、私が解析しうる
その仕組みを君に教えよう。
まず前提として、万物は「そのように存在できる」範囲、限界
という概念を有している。このような概念や魂の「情報」は
我々が普段存在するのとは異なる「異相」にある「エイドス」
に刻み込まれている。



『君は、
自身の未来から力を貰ってきている』

さて、君の身体が明らかに老けている…、
いや、別のものに進化してしまっている。
加えて「ここでないどこか」からエナジーを
用意していること。それらから導かれる
仮説は…



うーん、俺はいつも、
気合入れたら力がブワァー!
って溢れてきて…って感じで
全然特別なことしてる自覚は
ねえけど…

やはり自覚はなし…と。
君ヒーローコスチュームの
生成もエナジーで補ってるん
だろう？それならなおさら
エナジー消費量は多いはずだ。



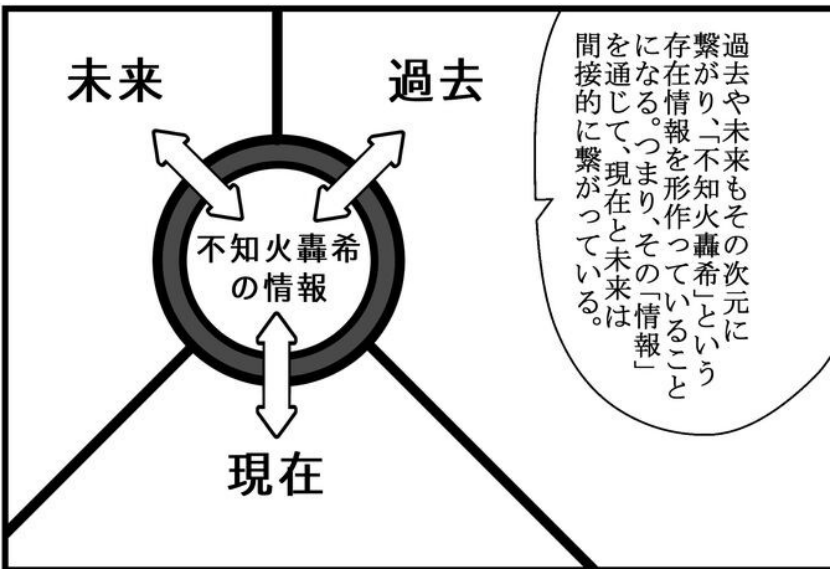
君は別位相に干渉する力を利用して、未来の情報を読み取り「未来の時間軸」にアクセス。そこからエナジীর供給を繰り返した。

そして、君はあろうことか更なる力を得るために、未来の力で現在の力を上書きしてしまった。それが故意なのか、繰り返された未来への干渉で起きた不具合なのかは私にも判断できない。



未来から…なんだって？

さっき話した情報が記された別位相は「自身の過去や未来」、あらゆる情報が記された実体のない次元なのだが、



過去や未来もその次元に繋がりで「不知火轟希」という存在情報を形作っていることになる。つまり、その「情報」を通じて、現在と未来は間接的に繋がっている。



ていうか疑うわけじゃないんだけどよ、アモさんはなんでそんな別次元とか過去とか未来と繋がってるのか分かるんだ？

我々「リスト」は何百年も影から世界中を視てきた。積み重ねた魔術や能力の研究によって、我々の「魔術」はこの星のみならず異なる時間や世界線にまで及ぶ。それに、君に近い能力使用プロセスを持つヒーローを、他にも知っているのね。

君の身体と、エナジীর流れを直接解析すれば、何をしているのかくらいは分かっているのさ。今日の今日まで直接見る機会はなかったけれど。



でもよ、もしそれが本当だったとして、なんであのタイミングで急に老けたんだ？

その現象が起きる前に、何か無理して大きな力を行使しなかったかい？



ああ…

：しかし、ヒーローに変身する力も
合わせて、なぜ君という個人に
そのような「概念干渉能力」が
備わっているのか、それは私にも
分からない。



以前私は、君の力は危険だ
と言った。それは君の力が
使い道によって「在り方」を
大きく変えてしまうから。

そして、君が未来に干渉する
ことで、君という未来にどの
ような影響を与えるか分から
ないからだ。君の誰かを守る
行いは、君自身を滅ぼす行い
かもしれない。

正直、君の持つ『可能性』は、
ヒトの身には余るものだと
思っている。

君に問おう、不知火轟希。
君はその『可能性』を抱えた
まま、自分の信じた道を
進む自信はあるかい？

『可能性』とか、正直わかんねえ。
でも俺後悔しない自信ならあるんだ。

この力を「ヒーロー」である
ために使いたい。ガキの
ころ夢見た「ヒーロー」
みたいに。

戦う力があるのに、
何もしなかったら、
死ぬほど後悔する
と思うから。

それが、君が力を
振るう理由なんだね。

真っ直ぐなのか、歪なのか…。
何百年と生きてきて
こう言うことを笑って
言う子を何人見てきただろう。



何処だ…

!?



長話は終わったか？
まだ準備は終わらんのか？

はいはい、
もうすぐゲート
が開きますよ



なんだ…
どっから声が…

“オレ”は何処だ…ッ



自分の能力の仕組みを
初めて聞いたけど…
やっぱり実感ねえよ
なあ

俺の未来の力…
未来の俺はどう
やってこの姿を手
に入れたんだろう
…ッ



既に別の何処かと
繋がっている…!!



………
おかしい。

?
どうしたのだ？



エクスを送り返す
ための門が開かない…
いや、『開かない』と
言うより…







オレ
轟
だよ



確かに俺自身と
同じもの…!?

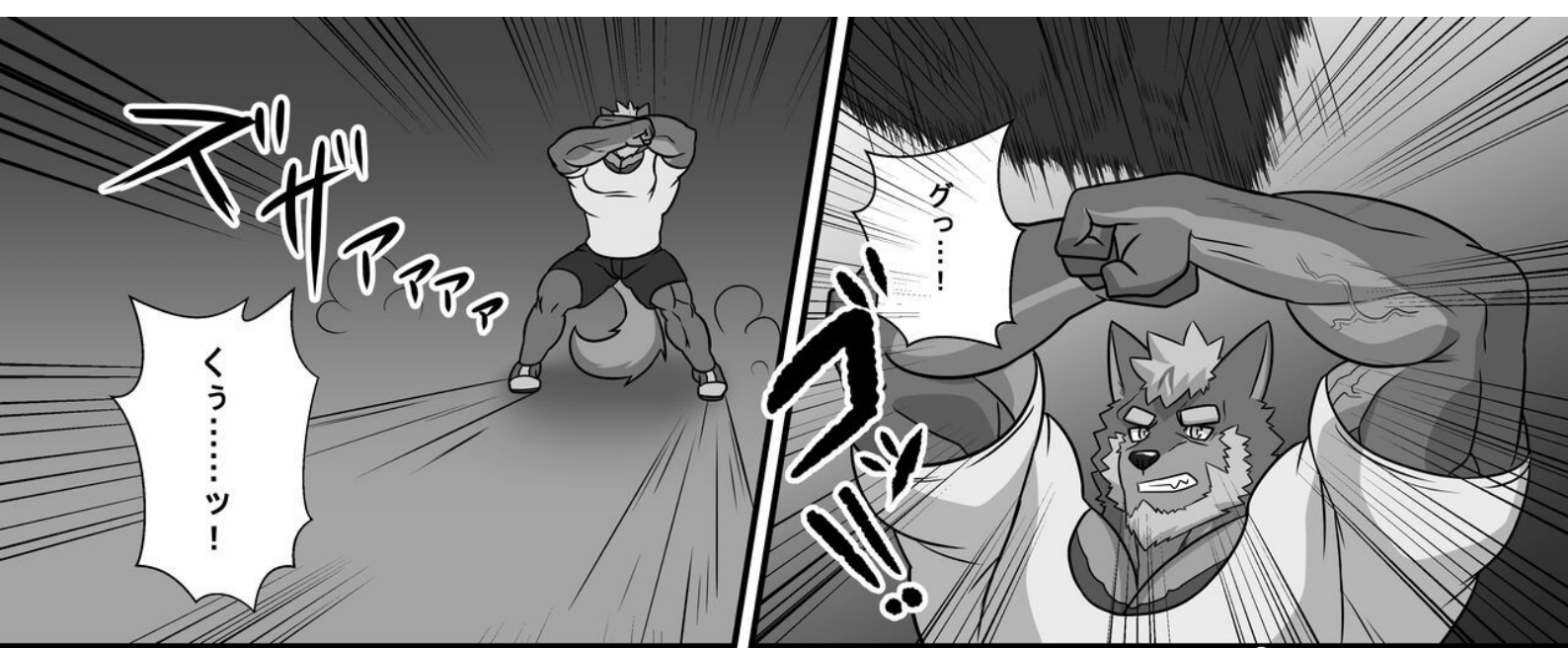
ッ!?



俺……?
どういうことだよ…
それにその姿は…?



俺自身…!?
訳が分かんねえ!
でもこいつから
感じるエナジーは…





親切丁寧に教えてやるよ
オレは、こことは違う世界線、
『並行世界』から来た真正正銘、
不知火轟希。

最初に言っとくが、オレは
お前と違って
「ヒーロー」じゃない。



そんじゃまあ存分に、
愛
殺し合おうぜ…。



ゴウ…。

To be continued...

あとがき

みなさんこんにちは、蒼刃(元けいじ)です。
本作を読んでいただきありがとうございます！
「LIMIT BREAK NEXT !」シリーズも3作目。
無印から数えると8作目です！全部持ってる人すごい！

今回、世界観に関する説明や会話パートが長かったので、
多めのページになってしまいました。
エロとストーリーの両立を意識して本シリーズは作っている
ので、どちらも楽しんでいただけたら幸いです…！

そして今回のラスト、とうとう“彼”が姿を現しました！
ツイッターにイラストを上げたのが初お披露目のキャラなの
ですが、皆さんからの反響と、自分でも元の轟との絡みを見
てみたいなと思ったことによって本編への登場という
運びになりました。
今後の展開を楽しみにしていただけたら嬉しいです！

ハンドルネームの改名など前作から変わったことも
ありますが、これからはサークル「ADVANCE」として
活動していきますので今後ともよろしくお願いします！

はい、いつものようにだらだらとあとがきを書いてしまいましたが
そろそろこの辺で。
この度は誠にありがとうございました。
またの機会にお会いしましょう！

奥付
「LIMIT BREAK NEXT ! III」
発行日:2019/09/22
発行:ADVANCE
発行者:蒼刃
連絡先:TwitterID「sojin_advance」
PixivID「5625368」
印刷会社：株式会社「栄光」様



LIMIT BREAK NEXT ! III
ADVANCE
2019 September